

(様式第1号)

平成30年度第2回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成31年3月20日(水) 10時～11時30分
場 所	本庁舎北館4階教育委員会室
出席者	委員長 笹倉 剛 委員 熊本 潤子 委員 布谷 忠司 委員 松川 圭子 委員 水谷 孝子  事務局 田中社会教育部長, 丸尾館長, 寺田利用サービス係長, 管理係石田
欠席者	枝元 益祐, 川口 恭子, 山田 耕治
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- ① 平成31年度予算(案)について
- ② その他

2 提出資料

平成31年度第2回芦屋市立図書館協議会 資料

3 審議経過

(協議会開会)

(田中社会教育部長あいさつ)

(笹倉委員長) それでは、これより、図書館協議会を開会します。まず、会議の公開についてお諮りいたします。「芦屋市情報公開条例第19条」に基づきこの会議は原則公開といたします。特にご意見がなければ公開とさせていただきますこととなりますが、ご異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」の声起こる。)

(笹倉委員長) ご異議がないようですので、この会議は公開とさせていただきます。「芦屋市情報公開条例第7条」に公文書の公開義務が規定されております。この規定に非公開情報の規定があり、それにより判断することになりますが本日の協議会の内容は原則公開と考えております。尚、公開内容についてはご発言頂いた委員のお名前も含むものとなっております。芦屋市のホームページ上で公開するため録音をさせていただきます。ご了解をお願いいたします。本日は、特に協議会の傍聴をされる方はおられますか。

(丸尾館長) はい。今のところございませんが、傍聴の方がこの後お見えになられましたら諮らせていただくことになるかと思っておりますので、よろしくようお願いいたします。

(笹倉委員長) その時はまた、ご報告いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(笹倉委員長) それでは、平成31年度予算について事務局から説明をお願いします。

#### [事務局より平成31年度予算についての説明]

(笹倉委員長) ただいまの説明につきまして、質問やご意見はございませんか。

(笹倉委員長) 質問がございませんので、その他の事項について事務局から説明をお願いします。

(丸尾館長) 平成30年度の事業報告をさせていただきます。「こどもおはなしの会」、「絵本の会」、「金曜シネサロン」等の定例行事や「ライブラリーコンサート」、「折り紙教室」等ボランティア主催の事業について、改修工事前までは通常通り実施しました。

改修工事期間中は、図書館主催行事とボランティア主催行事を原則中止としました。例外的に「こどもおはなしの会」、「絵本の会」、「こどもの本の研究会」及び「おはなしの研究会」については、会場を打出教育文化センターに移して継続しました。

「こどもおはなしの会」と「絵本の会」の参加者は、本館実施時と比較しますと減少しましたが、児童サービスを継続できたことと打出分室の利用促進ができたことから、一定の成果はあったと考えています。ブックスタートについても継続して実施しました。

不定期の事業としましては、5月12日に芦屋市文化ゾーンの連携事業として「niwa-doku」を実施し、約680名の参加がありました。

6月10日には「小学生の本の部屋」を実施し、10名の参加がありました。7月22日と8月5日に芦屋市文化ゾーン連携事業として「ミュージアムdeおはなし会」という事業を美術博物館で実施しました。

また、夏休みの子ども向け事業として、7月24日に人形劇の会、8月1日に折り紙教室、8月2・3日に怖い話に特化したおはなし会を実施しました。10月24日には学校図書館の担当者との合同研修会に図書館職員を講師として派遣しました。2月27日には大人向けのおはなしの会を行い44名の参加がありました。

今後の予定として、3月23日に「芦屋親子で楽しむクラシックコンサート」が美術博物館で開催されますが、図書館は待ち時間を使って、子どもたちに読み聞かせをすることで協力します。

また、大規模改修工事による休館期間中は、市役所北館1階に本館仮設窓口を設置し、主に予約本の受渡しを中心としたサービスを継続して行いました。スペースがないことから、十分な冊数ではありませんでしたが、仮設窓口には新刊本や教育委員会が発行しているブックリストに掲載されている本を自由に閲覧したり、借りていただけるように設置・排架もしました。また、本館受入れ雑誌全タイトルの最新号と一部新聞も閲覧可能とし、予約受付や貸出券の発行も行いました。

分室は通常どおり開室し、仮設窓口でも予約本受け渡しをしていることから、予約本の回収や返却ポストに返される本を処理して保管するなど本の物流や管理に係る業務は、工事期間中も引き続き本館内に職員が残り、業務にあたりました。仮設窓口の10月から2月までの利用状況は別紙のとおりです。参考に打出分室、大原分室の利用状況も掲載しております。

本館仮設窓口については、予約本の受渡しが主な業務だったのですが、開設した10月～2月までの利用の平均は貸出が4,096冊、予約が433件、利用人数が1,644人でした。また、本館が休館したことにより、大原分室の利用については、約3割程度増加、打出分室は本館休館前と比較しますと利用が倍近くに増えています。また、本館で行っていた行事も打出教育文化センターで実施しましたので、本館をメインで利用していた人が打出分室を頻繁に利用されるようになったと考えられます。

続きまして、今年度の事業として本館大規模改修工事の報告をさせていただきます。

今回実施した改修工事の内容ですが、屋上の防水工事・エレベーターの更新や空調設備工事、排煙装置の更新などを行いました。このほか、照明のLED化・授乳室の新設・館内案内標示の改良・よみきかせのへやの空調整備も行いました。

読書スペースの拡充については、どのように確保するのか苦慮しましたが、大型本コーナーの書架の一部および南側に設置していたキャレル席を閲覧カウンターに改修し、ソファーや椅子などの備品によって読書や調べものに使用する座席数を増やしました。

また、2階部分のリフレッシュコーナー・集会室・小集会室についても照明・床・壁の内装工事を行い、図書館活動を支えていただいているボランティアグループの活動の場として、ボランティアルームを新設しました。工事は今月完了し、現在4月16日のリニューアルオープンに向け、準備を進めているところです。今年度の事業報告は以上です。

(笹倉委員長) 何か質問はございますか。

(布谷委員) 打出分室の利用者が倍増したとのことでしたが、来館者ベースで見たら、3倍ぐらいであったように感じます。若い父親世代の利用が増えたように思えるので、本館が大規模改修工事になったことで、打出分室が土曜日に外出する場所と認知され、子育て世代にアピールできたのではないかと思います。

(丸尾館長) 利用率全体でみると、ほぼ倍になっています。来室者数はもう少し多いのかもしれませんが。これまでは、大原分室と比較して打出分室の利用率は低かったのですが、工事期間中の利用を見ると、ほぼ同程度の利用になっています。打出分室が地域の図書室として活気づいていますので、これからも継続して利用していただけたらと思います。

(笹倉委員) 利用人数のカウントはどのようにされていますか。

(丸尾館長) 本を借りた時のデータを基に集計しております。そのため貸出データに残らない来館者についてはカウントできておりません。

新聞・雑誌・図書を借りずに館内で読んで帰られる利用者が増えているように感じます。

(水谷委員) 来館者も利用者だと思いますから、図書館が地域にどれだけ開かれているのかという観点から、来館者を把握される方が良いと思います。

(布谷委員) 打出分室は打出教育文化センターの中の一施設なので、利用者数を見るという事では、例えば和室を図書スペースとして開放する期間を設け、その利用率を見ることで、どのくらい認知されたかを図ることができるのではないのでしょうか。

- (松川委員) 図書館本館の「こどもおはなしの会」にボランティアとして参加していますが、工事期間中は打出教育文化センターで実施しました。子育て世代の利用者が増加したということであれば、うれしく思います。工事後は従来どおり、打出分室のおはなし会が月1回に戻るので、打出分室の利用者の推移に関心があります。今後の打出分室の状況を見守り、ボランティア活動によって、より充実するのであれば、また考えていきたいと思っております。
- (丸尾館長) 工事に伴い、閉館中の行事をどのようにするのが課題でした。ボランティアの方とも相談し、おはなしの会等を継続することにしました。本館のおはなし会が打出に移るということで、本館とは違う形で参加記録のマップを作成してくださるなど、きめ細やかな対応をしていただきました。子どもたちを取り巻く情勢が変化していますが、引き続きボランティアの皆さまに協力していただき、おはなし会を大切にしていきたいと思っております。
- (熊本委員) 私は朗読ボランティアグループですので、対象が目の見えない方になります。今、図書館は子どもや大人を対象とした行事をされていますが、目の見えない方、高齢の方が読んで欲しいという本を読んで差し上げる、そういった幅を広げた読書会があれば、私たちも参加させていただきます。また、授乳室ができたことも良いと思っております。リニューアルオープンの4月16日を楽しみにしています。
- (笹倉委員長) 今、図書館は、大きく変わりつつあります。滞在型図書館といって、図書館で一日ゆったり過ごす。イギリスの図書館などは、非日常的な空間を味わえる何百万もするようなソファを設置していたり、金沢海みらい図書館では、大学と連携し、座り心地のいいソファを用意するなど、快適な滞在空間を提供しています。去年、広島に行ったのですが、広島には、こども図書館が4館もあります。芦屋市の場合は児童サービスに特化して頑張っておられるので、図書館のリニューアルと合わせて上手くPRしていただけたらと思います。
- (布谷委員) モンテメールの中に滞在型の書店がありましたが閉店し、高齢者の常連客が行き場を失いました。図書館に受け入れていただきたいと思うのですが、高齢者が利用するには遠い。JR芦屋南の再開発の話がありますが、図書館機能があれば良いと思っております。
- (松川委員) 設備や利用充実は考えていくべきことですが、図書館の機能というのは、芦屋の貴重な財産を守り続ける専門性が根幹にあると考えています。それらを担う職員が窓口委託拡大により、削減されるのではないかと心配しています。本の選定や廃棄は専門性のある方が行うべきで

あると考えます。職員の中に司書の資格を有する方は何人おられるのでしょうか。また、異動で図書館へ配属された職員の方に司書資格取得の費用負担を検討していただけないでしょうか。また、長年勤務されていて、司書資格を持つパート職員の方についても、正規採用等のチャンスはないのでしょうか。長期的な視野を持つ職員を育てる機関であってほしいと思います。

(丸尾館長) 職員の有資格者ですが、現在、正規職員と嘱託職員を含め18名中10名が司書もしくは司書補の資格を持っています。

(松川委員) もともと有資格の職員を採用しているのですか。

(丸尾館長) 職員は人事異動により配属されますので、有資格者であることは稀です。現在、有資格者を条件とした採用は行っておりません。過去には公費で司書資格を取得した職員もいましたが、今は実施されていません。

(布谷委員) 委託先の従業員は司書資格を有することを義務付けているのですか。

(丸尾館長) 原則、有資格者を配置することとしていますが、100%ではありません。資格を有しない場合であっても、一定年数窓口経験のある方を配置することを条件としています。

(笹倉委員長) 芦屋市立図書館は理想的で、館長が司書資格を有していて、図書館のことを一番わかっている方がされているのが良いと思います。図書館は資料も大事ですが、そこで働く「人」が一番大事だと思います。身分が保証された正規の職員が望ましいのは確かですが、派遣職員であっても優秀な方はいます。形態よりも市民にどのようなサービスを行うのか。そのような視点で優秀な司書を育てることが大切ではないかと思えます。

(田中部長) 市の傾向としましては、有資格者はアウトソーシングの方向に向かっています。ただ、松川委員が指摘された視点というのは大切だと考えます。有資格者採用を行うと人事全体の硬直化に繋がりますので、難しいところですが、先ほどお話のあった視点は忘れずにやっていきたいと思えます。

(熊本委員) 最近、スマホをかざすと読み上げてくれる子どもの本があると知りました。きれいな発音で上手に読み上げてくれるのですが、読み間違えても、人が読んであげるということで絵本と子どもの良い関係ができるのにとすごく残念に感じました。図書館では、導入予定はあるのでしょうか。

(丸尾館長) 現時点での導入予定はありません。神戸市では電子図書館サー

ビスを始めており、英語の絵本の読みあげもできるようです。

紙の本は質感を感じたり、読み聞かせのように、読んでくれる人のフィルターを通してお話を楽しむことができるので、今後も大切にしていきたいと考えています。

先ほど、笹倉委員長からご指摘がありました。図書館に足を運んでいただくために、今後は各図書館がどのような特色を出し、どのようなサービスをしていくか、さらに問われてくると思います。変わっていかなくてはならないこと、変わらずに大切にしていきたいことを見極めていきたいと思っています。

(笹倉委員長) 国会でも議論されている親の体罰についてですが、大人になりきれしていない親が増加している中で、図書館が果たす役割は大きいのではないかと思います。子どもの頃に、お話を聞くとといった幸せな体験は体罰とは全く逆の方向にありますから、抑止にもなるのではないのでしょうか。親も参加できるおはなし会もされているのですから、もっとPRされてもよいと思います。

(布谷委員) 来年度は、講演会を実施されるのですか。

(丸尾館長) 年度の後半に実施できればと考えています。子どもの事業については現在も力を入れておりますが、今後は大人向けや高齢者向けの事業を展開していきたいと考えています。

(松川委員) 子どもと高齢者についてなのですが、打出でおはなし会をしていたら、高齢者の方が行事のことを知人にも知らせてくれるといった予期せぬ人と人との繋がりを感じたことがありました。時代はAIや電子化に進んできますが、一方で人間力といいますか、対面朗読などもそうですが、人と人との関わりを重要視していただけたらと思います。

(布谷委員) 打出分室が繁忙で子どもからの質問に職員が対応できなかった時に、高齢者の利用者が答えてあげている光景を見たことがあります。世代間コミュニケーションを感じました。

(丸尾館長) 図書館が多世代の交流の場になればと思います。

(松川委員) 図書館は唯一、赤ちゃんから高齢者まで利用できる社会教育施設なので、とても意義のある場所だと思います。

(熊本委員) 子どもの本は大人が聞いても面白いものや話に入り込めるものがありますので、子どもと大人を分けない、誰でも参加できる行事があってもいいのではないのでしょうか。

(笹倉委員長) ほかにご意見はないのでしょうか。それでは、これもちまして平成30年度第2回芦屋市立図書館協議会を閉会します。

以上